

バスの追突事故、運転手の勤務記録を捜査

国土交通省も、バスの運行会社への立ち入り調査

2015/07/15 00:33

三重県の東名阪自動車道で起きた大型観光バスと大型ダンプカーの事故で、県警が自動車運転処罰法違反（過失傷害）容疑などでバスを運行していた会社を近く家宅捜索する方針を固めたことが14日、捜査関係者への取材で分かった。警察は、バスの男性運転手(50)が**11日連続で勤務**していたことから、**過労により注意力が落ちていた疑い**もあるとみて同社の**勤務記録**などを調べる。

新ルールの順守を重点調査、バス事故で太田国交相

2015年7月15日(水)7時15分

太田昭宏国土交通相は7月14日の閣議後会見で、同日未明に三重県の東名阪自動車道で起きた、高速乗合バスがダンプカーに衝突した事故について、新高速乗合バス制度の下、**新ルールが順守されていたかを重点的に調査**する考えを示した。太田国交相は「午前7時、自動車局に事故対策本部を設置し、情報収集、**地方運輸局への指示**を行っている。事故の情報を収集するとともに、警察とも連携し、原因究明を薦めて再発防止を徹底していく」と述べた。国交相はさらに、自動車局に対し、(1) 被害者への対応に全力を尽くす (2) 新ルールが守られていたかをよく調べて検証する (3) すべてのバス事業者に安全を期すよう徹底する、ことを指示したことを明らかにした。

追突事故の多くが
低速追従時の安心感と油断からくる
車間不足と注意力不足

平成27年 夏の全国交通安全運動 期間:2015/7/11(土)~20(月)

- “うっかり・ぼんやり”による交通事故を防止しましょう
- “スピードダウン”で安全運転

“1人で作業” 荷台からの“転落”、“はさまれ”注意

バック時は 降りて確認 乗っても確認

2時間ごとに、15分休憩!

交差点手前で止まる時は、車1台分のスペースを空けて止まる

自分は、事故を起こすはずがない? 事故に遭うはずがない?

バスがダンプに追突 原因は“バスの車線変更”か?

2015年7月14日(火)14時14分

三重県の東名阪自動車道で、乗客ら27人が重軽傷を負った観光バスと大型ダンプの事故で、警察は、バスが**車線変更**したことが事故原因の可能性があるとみて、調べています。14日午前3時半頃、三重県の東名阪自動車道で**観光バスと大型ダンプが衝突し、2台とも2メートル下の茶畑に転落**しました。この事故でバスの乗客24人や運転手などあわせて27人が重軽傷を負いました。

「びっくりしたお客様やバスが横転して悲鳴をあげた方もいた。足を挟まれてけがをした人もいた。すいませんとしか、言葉がありません」(交替のバス運転手)

「絶対に死ぬと思った。死んでもおかしくなかった」(バスの乗客)

「ご迷惑をおかけして大変申し訳ない。できることは精一杯やらせていただく」(バスを運行する会社の課長)

警察によりますと、**バスの運転手が「追い越し車線から走行車線に進路変更したことは覚えている」と話**していて、警察は、車線変更した**バスが大型ダンプの後ろにぶつかったはずみで、2台とも転落・横転した可能性**があるとみて、さらに詳しく調べています。

歩いて横断中、はねられ死亡

◆“右からの横断”に、特に注意◆

2015年7月14日(火)9時24分

13日午後7時50分ごろ、山形県で、道路を歩いて横断していた近くの無職の男性(69)が、会社員の男性(29)の乗用車にはねられ死亡した。警察によると、乗用車が走行中、“**右から**”来た男性を**右前部ではねた**。男性は畑から自宅に戻るところで、乗用車の男性は**会社からの帰宅途中**だった。